

平成26年度 単位PTA 講演一覧表

	テーマ	講師名	単位PTA名	講演内容
ケータイ・インターネット等	ゲーム・スマホで子どもが壊れる前に～遷喬小の実態と対応について	鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員 法務省 人権擁護委員 今度 珠美	遷喬小 八橋小 赤碕小 大篠津小 湖山小 郡家東小 南中・北中 大栄中 福米中 尚徳中 大栄小 河崎小	事前に小学校に来校してもらい児童より調査。それをもとに実態と対応について。 また、家庭の役割・学校の役割・メディアのつきあい方等について
	ネットで今、何が起きているのか～ゲーム・スマホで子どもが壊れる前に～			ネットにおける鳥取県の小学校の実態と対策について ・LINEにおけるネット人権侵害の特性、守られるべきSNSのルール ・ゲームの内容(レーティング)と「無料」「写真データ」などに潜む危険性 ・親がどのような姿を見せるのか、子どもは見たように育つ ・メディアと現実を混同せず、情報をうのみにしない、つきあい方を考える子に育てよう
	子どもがゲームにハマったら～ゲーム・スマホで子どもが壊れる前に～			ゲーム・スマホの最近の動向や問題点とその方策 ネットゲームについて知識習得と子どもと一緒に上手にネットゲームと付き合い方
	今、ネット上で何が起きているのか？～ネットワークトラブルや人権侵害に巻き込まれる前に～			ネット利用に関する本校生徒の事前アンケートの結果を踏まえて、本校生徒や家庭の実態や問題点を指摘していただき、人権問題についても加害・被害の実態や危険性を保護者に伝えて危機意識を喚起して頂いたとともに、家庭でのルールづくりとセキュリティ管理の大切さを教えて頂いた。
	子どもを犯罪の加害者にしない子育て～ネット社会による子育て～	辛島美智子	鹿野中	ネット利用の低年齢化が進み、使い方によっては、いじめをはじめトラブルや犯罪に巻き込まれる事例やその背景などを取り上げられた。「ネット時代」と向き合う子どもたちの現状とおとなの役割を考える。
	子どもNOW～子どもたちを取り巻くインターネットの現状と課題～	公益社団法人 反差別・人権研究会みえ 調査・研究員 松村元樹	岩美中	インターネット・携帯・スマホ等による現状のネットいじめや誹謗・中傷等の事例を紹介していただくなかで、その背景にある子どもたちの生き方や暮らしの中に課題や解決への糸口があるということやさまざまな例で講義していただいた。その中で子どもたち同士の関係性を豊かにし自尊感情等を高めることの重要性はもちろん、おとなの関係性も重要であることを確認することができた。また、「スマホ18の約束」を例に、使い方やルールづくりの重要性も考えさせられる機会となった
	「保護者の理解が子どもたちを守る」～子どもたちを取り巻くネット環境の現状といじめの実態～	県ケータイ・インターネット教育推進員 中井 浩	佐治小 社小・福米 西中 啓成小	スマホをはじめとする各種インターネット接続機器のよるトラブル事例やそのことに対するおやの理解不足の現状。「ラインはずし」などインターネット上でのいじめの実態の紹介と使用に関するマナーやルールづくりの必要性。
	テレビ・ゲーム・ケータイと親子の関わりについて	NPO法人子ども未来ネットワーク所属講師	加茂小	子どもたちが、安全に安心して、インターネットを利用しながらケータイやゲームをするために保護者のできることをしなければならないことについて
	“家庭でのインターネットとのつきあい方・ネットによる人権侵害について考える”	県ケータイ・インターネット教育推進員 笠原 晶子	車尾小 溝口小	
	メディアとの上手なつきあい方(前半) 知っています？なんでもありのインターネット(後半)		福生東小 弓ヶ浜小	10月9日、人権教育参観日の公開授業の後、講演会を実施。講演会は前半・後半に分け、前半は全校児童と保護者対象、後半は保護者のみ対象(100名参加)の二部構成で行った。子どもたちは保護者が知らないうちにインターネットの世界に入り込んでいるや、ゲーム機にはペアレンタルコントロール機能があり、使用制限を設定することができることなど貴重な話を伺うことができた
情報モラル教室「考えよう見えない画面の向こう側」	加茂中		家庭内でのルールやフィルタリングの重要性を伝える	

	子どもをとりまくメディアの話	渡部 万里子	誠道小	ネットの特性とルールやマナー、ケータイ、スマホによるトラブル、ネットいじめ、動画トラブル、ネット依存症などについての具体例を通じた講義
少年非行について	少年非行の現状と保護者の役割について	鳥取県警察本部生活安全課統括少年警察補導員 少年サポートセンター 平岩 紀代美	福部小・中	問題行動(非行)に走ってしまった子どもの心理やその背景となる家庭環境・学校の様子などについて、講師の平岩さんが関わってきた子どもたちの具体的な事例をもとについてお話を聞いた。自立心と依存心が入り交じっている思春期の子どもには、生の声と体温が感じられる関わり、親子のつながりが大切であること、何か起こっても現実をしっかりと受け止め、親の立場で振り返り、改善していくことなど、親としての心構えについてたくさんの示唆をいただいた
	「犯罪から子どもを守る」～今、家庭と地域にできること～	倉吉警察署生活安全課 少年警察補導員 清水 史枝	成徳小	・鳥取県の青少年犯罪の実態から「何が許され何がゆるされないのか」を学ぶことが重要 ・子どもを育てる基盤は家庭。悪いことを行いそうな時、親の顔を見て思いとどまることが多い。しっかりと心をつなげ親の役割をしっかりと果たすことが大切 ・警察は怖いところではなく、相談できる場所。活用してほしい
	「非行と家庭の関わり」～少年鑑別所・少年院の現場から～	鳥取少年鑑別所 所長 伊藤 潤	東小	講師の先生が、仕事を通して感じてこられたことのお話し。 ・私たち親に出来ること…愛を注ぐこと、存在を認めてあげることの大切さ。子どもが大切な存在であること、必要としていること、存在価値があること、当たり前なことではあるが、しっかりと伝えていくことが大切である。
	薬のはなし(危険ドラッグ等)	徳吉薬剤師	城北小	・身近な薬の話(利用方法、取り扱いなど) ・危険ドラッグの恐ろしさ
人権・いじめ・子育て	ハンセン病とは～歴史から知る差別と現在～	荒井 玲子	赤碕小	ハンセン病患者が受けた差別や偏見
	人権学習	米子市 人権政策課	福生西小	拉致問題について 小地域懇談会等
	なりたい自分をめざすとき	米子市人権推進員 木村 絹子	大篠津小	講師の経験、学びの中から現実にある差別の現実やそれに立ち向かう力をつけることの必要性を学ぶ
	いじめや非行問題を考える	美保学園教諭 小林 憲充	箕蚊屋中	問題行動に対して、どうしていけないのかを考えておく心構えもいる。学校・保護者・地域がそれぞれ思いやって、連携していくことが大切。
	優しい心が一番大切だよ	小森 美登里	境第二中	いじめについて
	出会いから学ぶ	高田 美樹	会見小	被差別部落出身者である講師自身の体験から、反差別の取り組みに学ぶ 今までの自らの姿を振り返るとともに、人としてのよりよい生き方を考える。
	「不登校の生徒たちが『荒神神楽』に燃え日本一になった	小谷 博徳	岸本小	地域の伝統芸能「神楽」を通じて、無気力・無関心な不登校の生徒たちが、自信と誇りを取り戻し、学校が活性化し元気になった生徒と教師の絆の話。子どもたちにどう接したら、良さを引き出してやれるか、自信を持って色々なことにチャレンジしていく子どもに育つかといった内容。
	「発達障害とブレインジム講座」	かげやまのりこ	日吉津小	ブレインジムという体操の基本的実技を通して、姿勢と身体と気持ちを前向きに保つ方法について学んだ。
	「今、幸せに生きるために」	堀内 佳	名和中	人権コンサート(90分) 人権教育参観日と校内文化祭を兼ねて、生徒・保護者ともに堀内さんの歌やトークにより学習した。
	私の歩んだ道～見えないから見えてきたこと～	竹内昌彦	大山中	幼少期に全盲となり、様々な苦難や素晴らしい出会いを経験されたこと。その体験を通して家族や周囲の支えのありがたさや、命の大切さについて分かりやすくユーモアを交えてお話頂いた。
小さな手のぬくもり	部落解放同盟女性部 坂田 かおり	根雨小	自身の体験を交えながら、なぜ差別事象が後をたたないのか、また、差別に立ち向かっていくにはどうしたらよいかをお話し頂いた。	
「写真でコミュニケーション」～聴覚障害と生きる～(講師の希望で「害」の漢字を使用しています)	元鳥取聾学校教諭 高田啓一	河原中	・28年間に及ぶ鳥取聾学校写真部の顧問として指導にあたられた経験の中から、生徒たちとの出会いと将来に対して感じた可能性について。 ・写真を通して社会を変えていこう、偏見を無くしていこうという思いを持ったこと。 ・聴覚障がい者が抱えるハンディキャップ、卒業後の教え子たちの苦難 ・皆さんにお願いしたいこととこれからの社会について	

人権・いじめ・子育て

いじめのない学校 ～学童期の仲間関係～	鳥取大学地域学部 小林 勝年	修立小	子どもたちの中で起こる問題は、子どもたち自身でルールを作り、解決していくことが望ましい 周りの大人たちは、それがうまくいくようにサポートすることが大切。
みんながってみんないい	岩美北小教諭 中西 毅暢	中ノ郷小	○児童期までの発達について・自制心の形成・心の発達段階・自己形成期 ○発達が気になる LD・ADHD・ASD ○子育てにおけるプチキーワード ○まとめ
あなたは子どものSOSに きがついていますか	スクールカウンセラー 足立 典子	福部小	気になる子どもたちの行動と接し方
ペペ人権コンサート	ペペ	用瀬小	町内各種団体が主催者となり、参観日後に実施。町民と児童が共にコンサートを楽しんだ。
どの子にも起こるいじめ 一学童期の仲間関係一	鳥取大学地域学部 小林 勝年	附属小	テレビドラマ「金八先生」のモデルになった「南中ソーラン」に関わったエピソードを交えた「いじめ」に 対処する大人の心構え、意識の持ち方について
子どもの自尊感情を育てるため	県人権センター専任 研究員 太田和宏	国府東小 東郷小	①自分が子どもの頃、親に言われて嫌だったこと ②その言葉をどんな気持ちで聞いていたか ③親はどんな気持ちで聞いていたか ④なぜ親の気持ちは伝わらなかったのか ⑤どのようにすれば 伝わったのだろうか
「みんながって、みんないい」	鳥取こども学園希望館 (いじめの芽をつむ心のケア 支援事業協力医)池成孝昭	西中	精神科医の立場から「いじめ」をする子どものおかれている状況、心理状態、といじめを受けている子ども のいじめを受けていることを周りに言うことが出来ない(助けを求めることができない)心理状態を学んだ
人権教育講演会	郡家人権啓発センター 八瀬河氏	郡家東小	同和人権問題に向き合う
「笑って考えよう身近な人権 ～私が出会った子どもたち～	社会人落語家 切磋亭琢磨	郡家西小	
いじめ防止と家庭教育	県いじめ不登校総合対策 センター 松岡一センター長	船岡小	いじめの防止に対する家庭教育のあり方
人権教育講演会	小澤治夫・中島朋子・ 松島紳子・中前雄一郎	西郷小	・生活習慣を変えれば人生が変わる。自己管理能力の大切さ ・子どものとらえる視点、ポイント ・子どもの心の成長に大切な大人の関わり方
人権教育	NPO法人 佐藤 淳子	灘手小	・講演 ・グループワーク ・発表 ・まとめ
ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン 専門推進員 河田 喜博	日南小	具体的な物を実際に使いながら学習 ・親子で学習する
生きている。 ただそれだけで素晴らしい	清水 成真	東郷小	
人間感覚を育てる	県人権文化センター 中尾 和則	浦安小 船上小	・人権・同和教育参観日の授業参観後の講演会を開催 ・人権を考えることの大切さについて ①人権とはなにか ②差別とは？差別と人権侵害の関係 ③様々な形で現れる差別と人権侵害 ④人権と自尊感情、自己肯定感等
よりよい人間関係をつくるために ～障がい教育から見てきたもの	安川 敦子	赤碕小	障がいについての理解、子育てのヒント
障害を理解して共に生きるため	県倉吉養護学校 佐伯 志保子	上小鴨小	・学校紹介 ・経験談講話 ・まとめ

人権・いじめ・子育て

「〈弱さ〉の〈強さ〉」 自立の再定義	鳥取大学地域学部 地域政策学科 仲野 誠	羽合小	従来の価値観では〈弱い〉とみなされていた人たちのつながりが、新しい形の〈強さ〉を生み出しているワシントンDCの黒人ゲートで体験、バングラディッシュの体験から考えたこと
東日本大震災から考える ～私たちの大切なものは～	とっとり震災支援連絡 協議会 佐藤淳子 宮城県石巻出身 神山孝光	浜坂小	震災の体験談「生きる」意味を考える内容
地平線の彼方へ	加藤 彰	彦名小	世界111カ国を自転車で回った体験談 風習、貧困、人種差別の現状など
「世界は君たちを待っている でしょう」		外江小	講演者の加藤彰さんは、「9・11テロ」の映像を視たことをきっかけに「一度きりの人生、夢に向かって思い切り生きたい。」と会社を辞め、以前から憧れていた「自転車での世界一周」を志された。その間、3624日間、111ヶ国、140261kmを歩んだ中での世界の貧困、飢餓、チャレンジ精神、自転車の旅の素晴らしさを次世代へ伝えるための講演活動
	田島 大介	上道小	ガーナでの井戸掘り体験
「思いを貫け」	ソチパラリンピック出場 チェアスキーヤー 谷口 彰	若桜学園	(児童生徒、保護者対象) 障がい者になっても自分の夢をあきらめずに道を切り開いていった。自分の夢や希望を捨てずに強い意志をもって努力を続けることが大切。自分は多くの人に支えられてきた。感謝の気持ちを持ち続けることも重要である。自分の思いを強く持ち続け努力できる人間になってほしい
手話言語条例と 障がい理解について	県福祉保健部障がい福祉課 荒田 すみ子課長補佐		DVDを使って、手話言語条例と聴覚障がいについてわかりやすくお話し頂いた
手話で歌おう	市立病院メディカル ソーシャルワーカー 山口恵	美和小	児童や保護者ともに、手話についての講話を聞き、手話と歌の練習を行い、保護者も児童も歌に合わせて手話をする事が出来るようになった。
手と手でお話ししましょう	梅林 緑	南部中	
	県手話協会の皆様	瑞穂小	県手話講師による講演会
親子で手話に親しもう	手話奉仕員 米原 勝雄	二部小	児童・保護者・先生・地域の方が一緒にあいさつや自己紹介を手話で伝える方法を学んだ。
子育ての迷い、不安や疑問 いじめ問題を解決	大阪教育大学教育学部 教授 戸田 有一	車尾小	
子育て講演会 「ビジョン 夢を持とう」	境港市教育委員会 元なでしこジャパン 大部 由美	加茂中	子どもたちに夢を持ち、目標を持って取り組んでいくことの大切さや素晴らしさを伝える
アサーション		宝木小	保護者全員対象に講演会を実施した。ただ、講演を聴くだけでなく、各小グループに分かれて事例ごとに話し合いを行った。和やかな中にも各家庭でもすぐに実践できることも教えていただき大変参考に
自分も相手も大切に コミュニケーション	スクールカウンセラー 小林 幹子	江山中	誰からも尊重されて大切にしてもらい権利「アサーション」を親子で学び、グループ討議やゲームを通じて思春期を迎えた親子の関係、生徒と教師との関係について、その築きかたを学んだ
子育てで気になることについて みなさんと一緒に考えよう	元県教育審議委員 福浜 隆宏元アナウン サー	若葉台小	限られた情報により価値観を決めないこと。メディアでは感じられない五感体験の大切さ、成長途上の子どもを認める過程の大切さなど社会環境の変化における親子の関わり方について、便利さの陰になくなっている間の大切さ、人の思いやり、失敗をおおれず経験して学び子育てについて
子どもとともに子育て親育ち ～自己肯定感を高めるために～	県教育支援アドバイザー 山田節子	逢坂小 神戸小	県教育支援アドバイザーを講師に迎えて子育てに関わる講演内容を実施 ・96点のテストを持って帰ったら…。親の声かけによって子どもが変わる ・ほめることが大事。その際、ほめる順番が大事。 ・子育てをしながら親も一緒に育っていくことを楽しむこと。 ・子どもの夢を応援してあげるのが親のつとめ。子どもの夢を応援してあげること

人権・いじめ・子育て

子どもとともに子育て親育ち	県教育支援アドバイザー 山田節子	面影小	親も子どもも、ともにストレスを軽くして子育てを楽しむためには親として子どもに道接すればよいかを体験を交えての話
「子どもが育つステキな言葉」	県教委 田中京子 竹本万寿子	美保南小	日頃の子どもへの接し方を振り返り、子育てについて考えるというもの
心の笑顔 ～心から笑顔になっていますか	泉龍寺 住職 三島 道秀	中ノ郷中	
「自立のしつけ」をめざして	県教委事務局 東部教育局 寺谷 孝志	倉田小	1、教育評論家が提唱している自立のしつけ十か条(①生活習慣②あいさつ・マナー③家事分担④食事⑤学習習慣⑥金銭や物⑦整理整頓⑧人権尊重⑨感動⑩言葉遣い)について、それぞれがどの項目が重要と考えるかについて、グループ討議、発表、意見交換、 2、子育ての好ましい環境や子どものしつけについての講演
「10秒の愛」心にやさしさの貯金 ～幸せはあとからやってくる～	県PTA協議会 井上洋子会長	大正小 関金小	日々忙しい中でも、10秒という短い時間でも子どもと関わる時間をつくることで、親子の絆が深まったり、子どもたち心の安定につながる。子どもたちは関わって欲しい。話を聞いてほしいと思っている。取り組み方はいろいろあるので、各家庭でもできることから始めてぜひ取り組んでみてほしい。
「生活の中に答えがある」	内田玲子	明治小	講師の生い立ちや様々な経験から、昨今の教育情勢や家庭教育について考えるという内容
「思春期の子どもへの接し方Ⅱ ～子どもたちのサインに気づいていますか?～」	国府中スクールカウンセラー 田村真一	国府中	思春期の子どもへの接し方、対処法などについて講演、少人数グループでの意見交換
安心できる基地は育っています	前船岡中スクールカウンセラー 浦林恵子	船岡中	3年生は高校進学、1.2年生は中学校統合前に、小規模集団から大規模集団へ移行していく思春期の子どもたちの心理等を講演していただいた
「よりよい人間関係をつくるために ～言葉で伝えることの難しさ～」	鳥取大学保健管理センター	智頭中	思いやりや感謝の気持ちを伝え合う生活のあり方を考え、よりよい親子関係、人間関係をつくるために親子でどんなことに気をつけていったらいいか研修する
子どもたちの未来と家庭・地域の関わり ～海外の子育てからみてきたもの～	県図書館協会会長・ 海外シニアボランティア 山田 晋	丹比小	家庭、地域、学校がどう関わっていけばよいか、社会教育の観点から経験を踏まえてお話をしてください。また、山田氏は海外シニアボランティアとして活躍しておられるので、海外の子育てから学んだ親と子の関わりや日本との違いについて話していただく。その他、健全な思春期を迎えるために、小学校6年間で親がどう子どもと向き合っていけばよいか、反抗期にさしかかった子どもへの対応について等具体的なお話を聞く。
「自分が好き」と思える子どもをめざして～子どもへの関わり方を考える～	石谷小児科医院院長 石谷 暢男	河北小	子どもの心や発達の問題と子育てについての研修
「大人は知らない思春期の話」	ミオ・ファティリティクリニック 看護師・思春期保健相談士 葉山 美紀子	明倫小 車尾小	反抗期や思春期を迎える子どもたちにどんな関わり方をすればいいのか。
いのちとからだのはなしをしよう		上灘小	人の体のすばらしさ、命の大切さ、保護者として子どもたちに今、できることをお話頂いた
命の尊さ	柴田 久美子	境小	
命を大切にする子、自分の友だちを大切にすることを育てるために	県人権文化センター 太田和宏	隼小	自分の自尊感情を育てるために、大人がどのように関わっていくとよいかについて、参加型学習をして深めた
ありのままの自分を生きるヒント	辻 富美子	境第一中	「やらなければならない」という考え(強迫観念)をひっくり返して「やらなくても大丈夫」と自己暗示をかけてリフレーミングを行うことで、心にゆとりをもって人生を歩むと良い

人権・いじめ・子育て	「いのちの記憶」 思春期の子育て	徳永 進 橋本万佳子	中央中	
	優しい心が一番大切だよ	小森 美登里	境第二中	
	今を生きる子どもたちへ伝えたい	熊丸 みつ子	中山中	昼間生徒に対して講演。夜、PTA会員に対して講演。 子育てについての笑いあり。涙ありのマシンガントークでの講演
	「親子のコミュニケーション(子どもを知る)～子どもの気持ちに近づくために～」	とっとり子育て親育ち プログラムファシリテータ 西浦 公子	北谷小	・アイスブレーキング ・ワークシート記入 ・話し合い→体験 ・振り返り
	「一人一人を大切に」	倉吉養護学校LD統専門員	社小	子どもたち一人一人の違いや個性を理解し、認め合うことの大切さと子どもへの関わり方について
	「子どもたちの笑顔のため～つながりを育む豊かな心～」	県家庭教育アドバイザー 佐伯 陽子	倉吉南中	人権教育
	子育てをして知る親の恩	天徳寺住職 宮川敬之	日進小	
	子育てにおける親の役割	石田 由朗	赤碕小	子育てにおける家庭の役割
	「小学生の心の成長」 今おさえておくべきもの	スクールカウンセラー 菊池先生	福米東小	各成長段階ごとの子どもへの接し方。 人格形成は17才までで決まる。科学的に解決して頂いた
		人生が変わる生活習慣の話し	東海大学教授 小澤 治夫	河北中
生活習慣と健康について		辻田 哲郎	和田小	「早寝・早起き・朝ご飯」のキャッチフレーズが定着してきている今だからこそ、もう一度、生活習慣が及ぼす健康への影響について、医師の立場からの話し
規則正しい生活リズムの大切さ、睡眠の大切さ		小児科医 星野 恭子	名和小	規則正しい生活リズムの大切さ、睡眠の大切さ
「食トレ、チャレンジ！ ～じょうぶな体づくりは毎日の食卓から～」		三朝町調理センター 栄養教諭 山下 恵	倉吉南中	食育
お小遣いから学ぶ上手なお金の使い方		鳥取環境大学経営学部 准教授 泉 美智子	浜村小	親子で、お金について身近な話題から経済のしくみを勉強しつつ、お金について考え、子どもの金銭感覚を身につけていくことを事例を交えて紹介する
正しい歯の磨き方		学校歯科医 萩原先生	西郷小	学校保健委員会の中で口腔の衛生について指導してもらう。PTAと児童がいっしょに勉強する
コンタクトの正しい使い方		学校眼科医 三木眼科医 医院長 三木 統夫	北中	中高生のカラーコンタクトレンズ使用に関する考察と、注意点など
社会における男女の違い		NPO法人kirari代表理事 福井正樹	青谷中	男女共同参画の正しい理解をはかるため、育児支援やワーク・ライフバランスとの連携を含め、様々な視点からの問題解決へ向けた提言を行う
健康に関する講演		小西博之(タレント)	船岡小	末期ガンからの生還をテーマに健康についての講演
若年性認知症を 予防するためには」		クローバー代表 藤田	湖山西小	未だ早い、自分には遠い話と思っている今、正しい知識を身につけて予防に最善を尽くす。また、病気の方への接し方等
PTA役員研修		西部教育局社会教育担当 生田 信樹	五千石小	PTA研修の役割や、参加型の研修会の良さを知り、PTA研修会のよりよい進め方についてイメージすることができる
PTAと私		湖南地区会長 小谷俊行	湖南学園	前半講演 後半グループ討議 保育園との合同研修会